



こ  
こ  
ま  
で  
使  
え  
る

接  
続  
料  
タ  
ダ  
で  
も

# プロバイダーの 実力徹底チェック

インターネットのために支払う月々のお金に悩まされてきた人にはうれしい知らせだ。電話代だけでインターネットが使い放題の無料接続を提供するプロバイダーが再び登場してきたのだ。無料プロバイダーを使うには何が必要なのか、本当につながるのか、サービスの質はどうか、じっくり調べてみよう。

## 無料プロバイダー、 続々登場!

長年インターネットを利用している人なら、1997年に無料プロバイダーのアスキー・インターネットフリーウェイが終了し、システムを提供していたハイパーネットが倒産したことを覚えているだろう。そんな人が「無料プロバイダー」と聞けば「いまさら?」と思うかもしれない。ところが世界的に見れば、無料の接続サービスは増え続けているのだ。イギリスではFreeserveが100万人を超える会員を獲得し、AOLが対抗してNetscape Onlineを開始したほど無料プロバイダーが一般的になっている。コンピュータメーカーDELLはイギリスとドイツで無料接続サービスを展開し

ている。米国ではNetZeroが株式を公開するまで成長した。

日本でも1999年の後半から無料プロバイダーが再び登場し始めている。会員を女性に限定したShes.netを皮切りに、接続中に広告を表示することで接続料金を無料とするlivedoorとオーリック・ウェブ・ジャパンがサービスを開始した。また、メール専用の無料プロバイダーMailBankは2000年1月にウェブなども利用できる接続サービスFree Serveの開始を予定している。この流れが本物になり、日本でも無料プロバイダーが「メジャー」になっていくのか、これから要注目だ。

この記事で紹介する無料プロバイダー

**Shes.net**

Jump [www.shes.net](http://www.shes.net)

**livedoor**

Jump [www.livedoor.com](http://www.livedoor.com)

**オーリック・ウェブ・ジャパン**

Jump [www.auric.co.jp](http://www.auric.co.jp)

**Free Serve**

Jump [www.mailbank.ne.jp](http://www.mailbank.ne.jp)

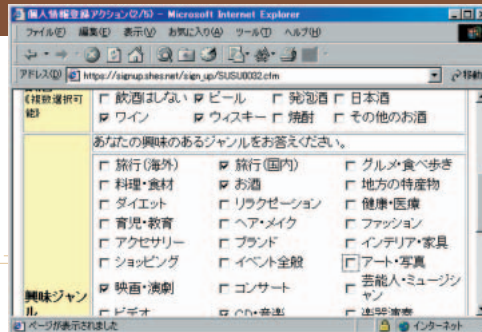
# 無料接続サービスの条件は

無料サービスには条件がある。お金の代わりにユーザーはプロバイダーに何を渡さなければならないのだろうか。まずは各プロバイダーの利用条件を見てみよう。

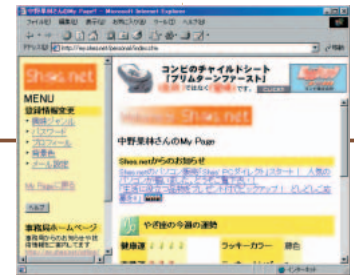
## Shes.net

女性専用 入会時のアンケート サイトへのアクセス

Shes.netは女性専用で、朝6時から夜10時までの時間制限がある無料プロバイダーだ。入会申し込みの際には「興味のあるジャンル」や「インターネットで買ってみたいもの」などの詳細なアンケートに答える必要がある。会員になってからの義務は、ポータルページ「My Page」に1か月に一度以上アクセスすること。企業とのタイアップで実施されているアンケートへの協力は「お願い」となっているが、強制ではない。



入会申し込みの際のアンケート。かなり細かい。

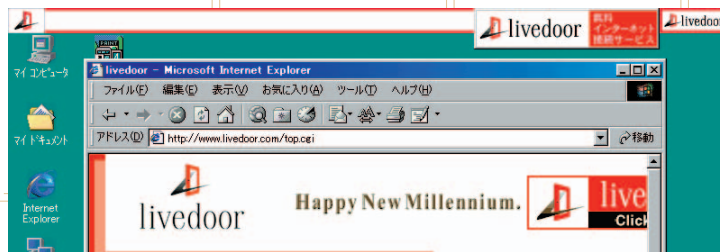


会員専用のポータルページ「My Page」

## livedoor

専用ソフト 入会時のアンケート 広告表示

livedoorに接続するには、専用のソフトを使う必要がある。このため、利用できるのは現在ウィンドウズユーザーだけだ（マッキントッシュ版も登場する予定）。接続している間は、このソフトのバーが常にデスクトップの上部を占領し、広告が表示されるようになる。また、最初にアクセスしたときには「オンラインショッピングで購入手いもの」などのアンケートがある。



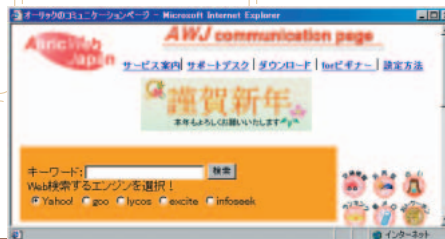
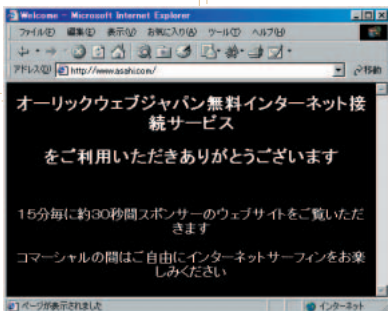
画面上部に表示されるバー。ここからlivedoorのコンテンツにジャンプしたり、接続を終了したりできる。

## オーリック・ウェブ・ジャパン

15分おきに広告表示

オーリック・ウェブ・ジャパンの無料接続は、ブラウザを最初に開いたときと15分おきに、広告のページが30秒間表示されるシステムだ。それ以外は普通にインターネットを

利用できる。入会申し込みの際には、ほかの3社のような詳細なアンケートはなく、申し込むとすぐにウェブ上でIDとパスワードが表示されるのが手軽だ。



広告表示の間は、ブラウザでどんなページを読もうとしても広告だけが表示される。

## Free Serve

広告メール 日本テレコムサービスに加入

Free Serveは今年1月から始まる予定の無料プロバイダーで、MailBankの会員に限って予約を受け付けている（1月6日現在）。MailBankへの申し込みの際には「ほしい情報のジャンル」などのアンケートに答える。この情報に基づいて、定期的に広告メールが送られてくる。Free Serveへの入会は、日本テレコムの市外電話割引サービスへの加入が条件だ。ただし日本テレコムの利用は条件ではないので、費用がかかることはない。なお、サービス正式開始後のFree Serveには、MailBankの会員でなくても入会できるようになる予定。

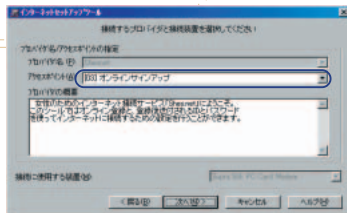
# 無料プロバイダーに 入会してみよう

それではさっそく無料プロバイダーを試してみよう。  
CD-ROMに接続ソフトを収録したプロバイダーもあるので、  
まだインターネットにつないでいない人でも大丈夫だ。

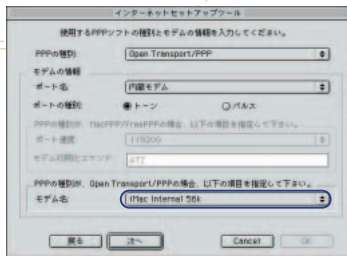
## Shes.net



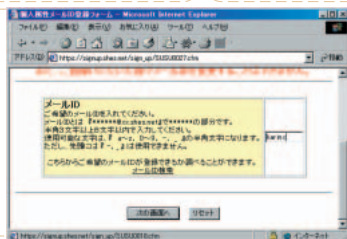
Shes.netへのオンラインサインアップとインターネット設定のためのソフトは、本誌の付録CD-ROM Bに収録してある。ウィンドウズ版は「Win」フォルダーの下の「Pppsetup.exe」を、マッキントッシュ版は「MAC」フォルダーの下の「PPPSetup」をそれぞれダブルクリックすればいい。



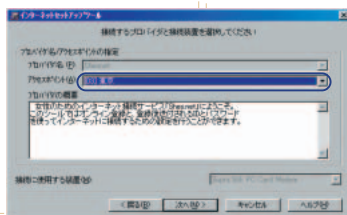
**1** ソフトが起動したら、「次へ」を押す。オンラインサインアップするときは、「アクセスポイント」で「オンラインサインアップ」を選ぶ。



**2** ウィンドウズ版では、「次へ」「完了」を押す。マッキントッシュ版では、「次へ」を押して「モデム名」を選択してから、「次へ」「OK」を押す。



**3** ブラウザーが開いて、オンラインサインアップ用のページにアクセスする。「利用規約に同意します」を押したら、まずメールアドレス用の名前を考えて入力し、「次の画面へ」を押す。あとはアンケートに答えていけば申し込みが完了する。



**4** 登録書が郵送で届いたら、**1**のソフトをもう一度起動する。今度は「アクセスポイント」で自分の市内局番に近い番号を選んで「次へ」を押す。

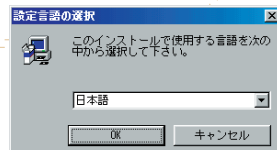


**5** 登録書に書かれた接続ID、パスワード、メールアドレスと自分の名前を入力して「次へ」を押す。最後に「完了」または「OK」を押せば、ウィンドウズでは「ダイヤルアップネットワーク」に、マッキントッシュでは「リモートアクセス」に接続設定が自動的にできる。

## livedoor



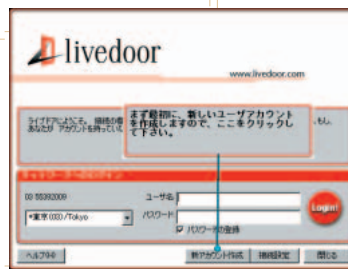
livedoorへのオンラインサインアップと接続ソフトは、本誌の付録CD-ROM Bに収録してある。「Livedoor.exe」をクリックすれば、インストールが始まる。現在のところウィンドウズ版のみだ。



**1** インストールソフトが起動したら、「日本語」を選べばインストールが始まる。

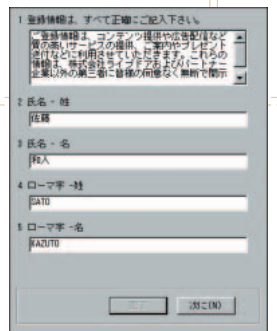


**2** インストールが終了したら、設定が始まる。「次へ」を押していけばいい。「電話番号の選択」では、自分の市外局番に近い地域を選ぶ。電話がプッシュ回線でない人は、「詳細な番号設定」を押して「パルス回線を使用」をチェックするのを忘れないように。



**3** 「新アカウント作成」を押せば、自動的に接続してサインアップが始まる。

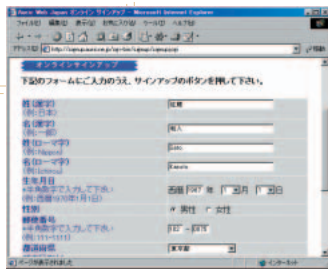
**4** 「ユーザー名」に自分の好きなメールアドレスの名前を入れ、パスワードを入力して「新アカウントの作成」を押す。



**5** アカウントが作成されたら「完了」を押す。ウィンドウズのスタートメニューにlivedoorのアイコンが登録されるので、そこからlivedoorに接続する。最初に接続したときにはアンケート画面が表示されるので、それに答えていけばいい。

# オーリック・ウェブ・ジャパン

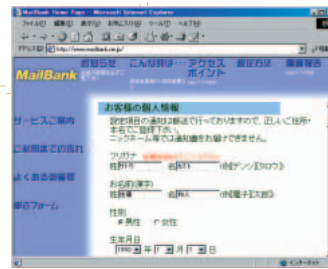
オーリック・ウェブ・ジャパンの申し込みはウェブ上のみ。ホームページの「今すぐ登録!」をクリックして規約に同意し、必要項目を入力すれば、すぐにIDとパスワードが表示される。ダイヤルアップ接続の設定は自分で行うことになるので、ホームページの「接続設定方法」をよく読んでおこう。



Jump [www.auric.co.jp](http://www.auric.co.jp)

# Free Serve

MailBankの会員に限って事前申し込みを受け付けているFree Serveは、サービスの正式開始後にはウェブ上からだでも入会申し込みができるようになる予定。ちなみに現在のMailBankの申し込みは、ウェブ上で氏名や住所、アンケート項目に答えた後で、郵送でIDとパスワードが送られてくる形式だ(1月6日現在)



Jump [www.mailbank.ne.jp](http://www.mailbank.ne.jp)

プロバイダーには安いだけでなく、品質も求められる。ここでは無料プロバイダーの話中度和ダウンロード速度を調べ、本当に使えるかどうかを試してみた。

# 「どこまで使える？」を徹底検証

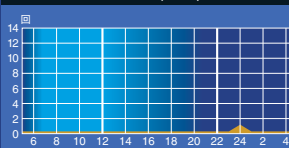
## 話中度調査

BUSYはほとんどなし

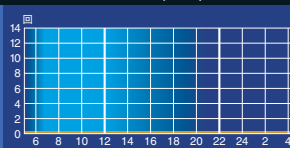
以前に本誌で連載していたアクセスポイントの話し中の頻度を計る「話中度調査」を復活させて、無料プロバイダーの東京、名古屋、大阪のアクセスポイント(オーリック・ウェブ・ジャパンは東京と大阪のみ)の話中度を調べてみた。その結果、話し中はオーリック・ウェブ・ジャパンで1回、livedoorで1回あっただけだった。無料プロバイダーの認知度が上がって会員数が急増すれば、つながりにくくなる可能性もあるが、現段階では問題はなさそうだ。

調査概要：話中度調査とは、1999年12月23日から2000年1月6日までの2週間、編集部が各プロバイダーのアクセスポイントに2時間おきにモデムで電話をかけて、話中で接続ができなかった回数を調べたもの。

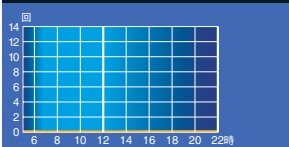
オーリック 東京(03)



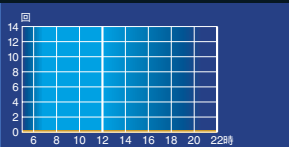
オーリック 大阪(06)



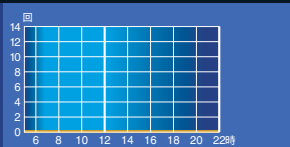
Shes.net 東京(03)



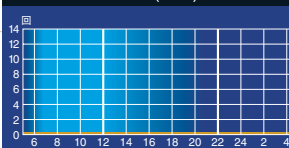
Shes.net 名古屋(052)



Shes.net 大阪(06)



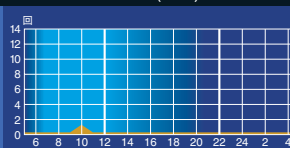
livedoor 東京(03)



livedoor 名古屋(052)



livedoor 大阪(06)



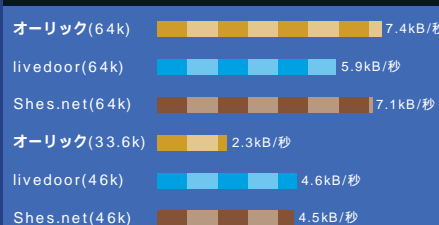
## ダウンロード速度

スピードはまずまず

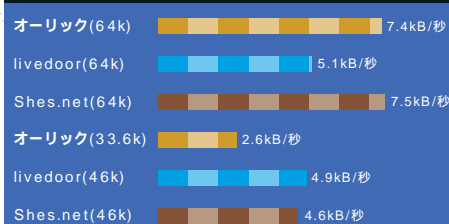
実際のダウンロード速度はどうだろうか。実際にファイルをダウンロードして調べてみると、アナログではlivedoorが、ISDNではオーリック・ウェブ・ジャパンが速かった。オーリック・ウェブ・ジャパンのアナログ速度が33.6Kbpsまでしか出ないのが残念だが、それ以外はまずまずの速度だ。テレホーダイ時間には速度はかなり落ち、23時から0時の間は途中で切れてしまうこともあるが、これは一般のプロバイダーでもよく起こることだ。なお、Shes.netは夜22時から朝6時まででは接続できない。

調査概要：ダウンロード速度とは、2000年1月11日から14日に、編集部から東京のアクセスポイントにモデム(56Kbps)とTA(64K)で接続し、下記のファイルをダウンロードするのにかかった速度の平均値。モデムでは、Shes.netとlivedoorに46Kbpsで、オーリックに33.6Kbpsで接続。  
ftp://ftp.fujitsu.co.jp/pub/PC/forest/win/inet/mail/becky/bk12507.zip

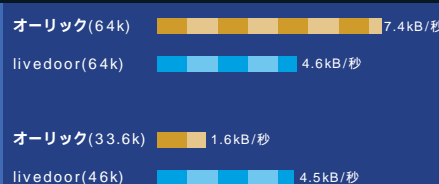
12時~15時



19時~22時



0時~2時



# 無料プロバイダー4社 基礎データ

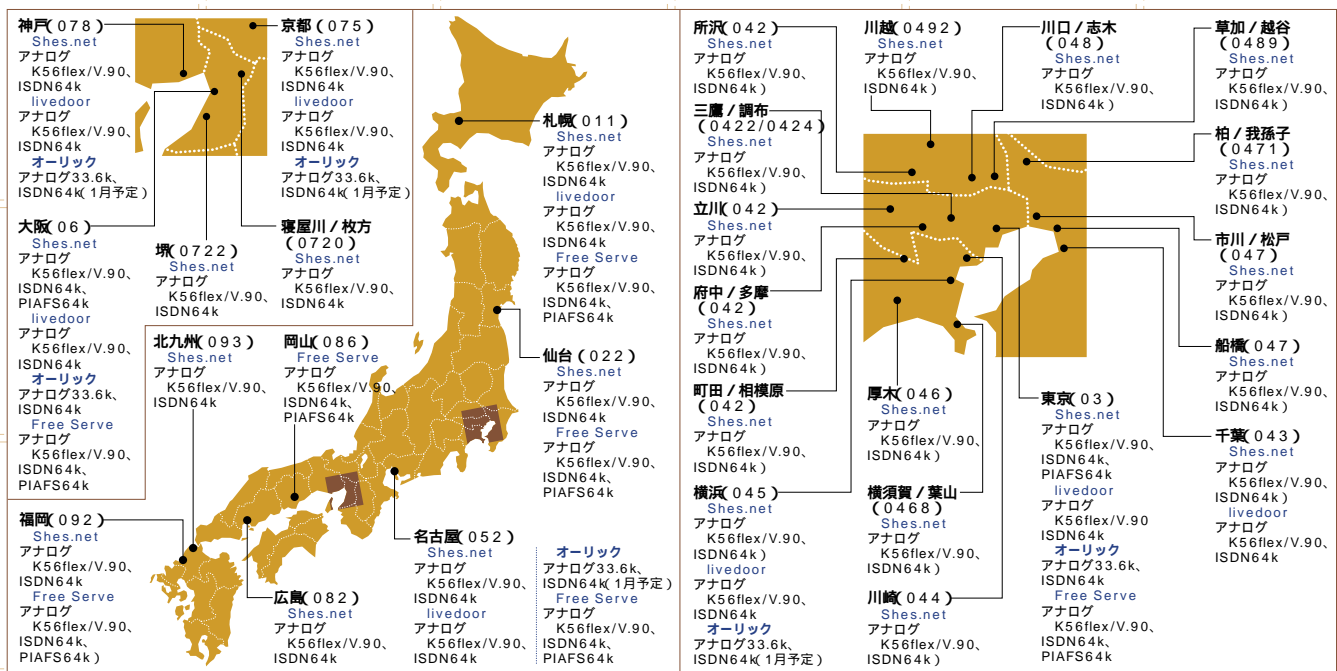
無料プロバイダー4社にアンケートを取って、サービス内容やアクセスポイント、バックボーンを比較してみた。各プロバイダーの特徴をチェックして、入会の検討に役立てよう。

## 基本サービス内容と連絡先

サービス名	Shes.net	livedoor	オーリック・ウェブ・ジャパン	Free Serve
申し込み方法	専用ソフト、ウェブ、電話	専用ソフト(ウェブからダウンロード、電話で送付)	ウェブ	ウェブ
アクセスポイント数	29地域38か所	7地域10か所	2か所(4か所増設予定)	7地域9か所
必要な環境	ウィンドウズ95/98、マッキントッシュ、IE 4以上、ナビゲーター4以上	ウィンドウズ95/98/NT、マッキントッシュ(今春予定)	インターネットに接続できる環境	インターネットに接続できる環境
電子メールアカウント	無料	無料	年額2,000円	無料
電子メールの容量	10Mバイト	10Mバイト	2Mバイト	3Mバイト
ユーザーホームページ	なし	今春提供予定	なし	計画あり、時期未定
ユーザーホームページ容量		50Mバイト(予定)		
ユーザーサポート	電話(土、日、祝を除く 10:00~13:00、14:00~18:00)、FAX、電子メール	電話(9:00~20:00)、電子メール	電子メール、電話(1月開始予定)	電話(10:00~17:00)、電子メール
運営組織	CSKネットワークシステムズ株(株)アスキー	(株)ライブドア	オーリック・ウェブ・ジャパン(株)	(株)メールバンク
問い合わせ先住所		東京都港区南青山3-13-18 313 南青山ビル8F	東京都港区浜松町2-1-15 芝パークビル2F	東京都港区三田5-2-30
問い合わせ先電話番号	0120-117049	03-5539-2000		03-5419-8016
問い合わせ先メールアドレス	info@shes.net	pre@livedoor.net (入会・登録前)	info@auric.co.jp	info@mailbank.ne.jp

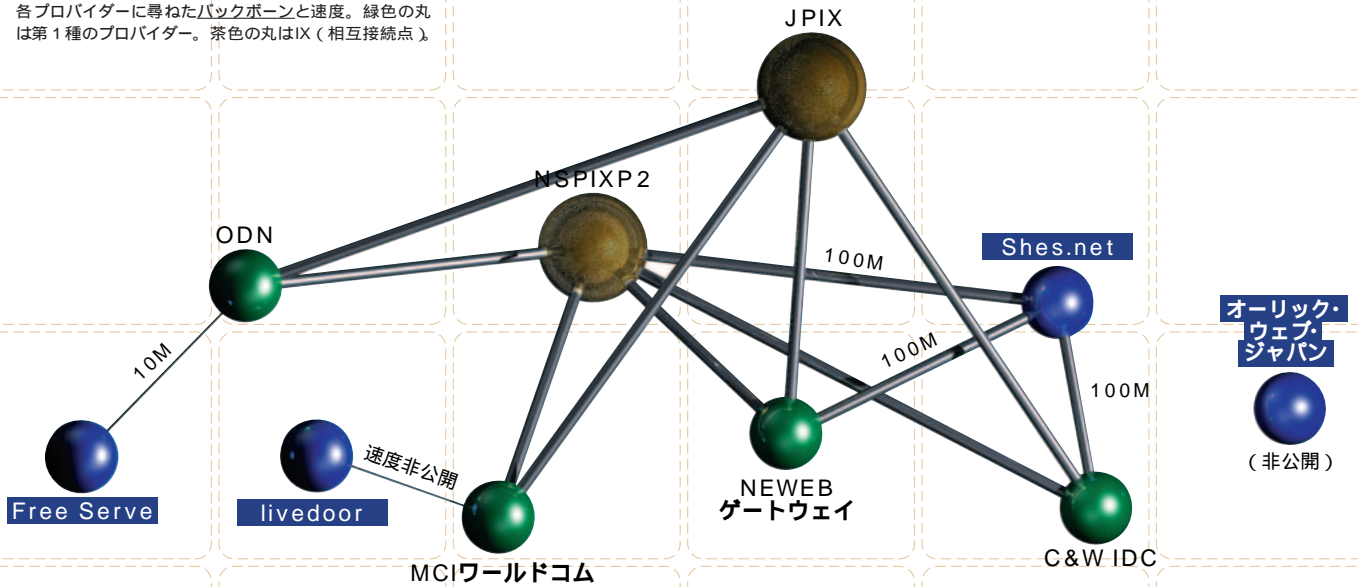
10:00~20:00、年中無休(年末年始を除く)、6,000円の「コールセンターカード」という電話サポート券を発売。

## アクセスポイントマップ



## 接続マップ

各プロバイダーに尋ねたバックボーンと速度。緑色の丸は第1種のプロバイダー。茶色の丸はIX（相互接続点）。



無料  
プロバイダー

# また登場!

この記事を作成している間に、またまた無料接続サービスを開始するプロバイダーが登場した。全国に何と128か所のアクセスポイントを用意するというValueNetだ。1月17日現在ウェブ上で申し込みを受け付けている。2月1日にはサービスを開始する予定で、電子メールとユーザーホームページは3月末から提供される予定。ホームページは50Mバイトと大容量だ。利用の際には、livedoorのようにダイヤルアップ接続と広告表示のための専用ソフトを使ってアクセスすることになる（サービス開始時はウィンドウズ版のみ）。入会の条件は、DDIの市外局番割引サービス「だんぜんトーク」に加入すること。ただ

し、このサービスには入会金や月額固定料金はかからない。これで本誌が確認した無料プロバイダーは5社目となり、いよいよ日本でも無料接続サービスが本格的に広まる時代が見えてきた。

ValueNet

Jump [www.valuenet.ne.jp/tourouku/](http://www.valuenet.ne.jp/tourouku/)

無料  
プロバイダーの  
実力徹底チェック

## 無料プロバイダーの気になる点

### テレホーダイには使える?

プロバイダーにかかる料金が無料となるとすぐに思い付くのは、テレホーダイとの組み合わせでインターネット接続をさらに安上がりにする手だ。ただし、プロバイダーのアクセスポイントの中には、普通の電話番号のように見えて実はNTTの回線を利用しておらず、テレホーダイやエリアプラス、タイムプラスなどのサービスが使えない場合もある。今回紹介した無料プロバイダーの中では、livedoorのアクセスポイントでNTTのサービスが使えない。それ以外の3社ではテレホーダイの利用は可能だ。深夜と早朝に接続を限れば、月額1,800円や2,400円だけでインターネットが使い放題になる（ただしShes.net

は22時から6時までは使えない）。

### ダイヤルアップルーターは?

たとえ無料プロバイダーでも、高機能で快適な接続環境はほしい。ダイヤルアップルーターでの接続はどうだろうか。専用の接続ソフトを使ってアクセスするlivedoorでは、ダイヤルアップルーターは使えないが、それ以外の3社では問題なく利用できる。

### 個人情報はどう使われる?

無料プロバイダーに限らず、インターネット上の無料サービスで気になるのは、集められた個人情報がどう扱われるかということだ。各プロバイダーに尋ねたところ、Shes.netでは、「収集したデータは統計処理して扱うの

みで、個人名やメールアドレス、住所などが外部に出ることはない。CSKネットワークシステムズは、日本データ通信協会の定める、個人情報保護におけるマル適マークを取得している」とのこと。livedoorは、「広告主にはユーザーの属性情報や広告のクリック率などの分析データのみを提供し、個人を特定できるようなデータは提供しない」との答えて、オーリック・ウェブ・ジャパンは、「ダイレクトマーケティングに必要な情報は広告主に提供するが、氏名など個人が特定されるような情報は、トップシークレットとして取り扱っている」と答えた。Free Serveでは、「広告には匿名データベースを使用するため、個人情報が広告主に渡ることはない」と言う。ユーザーのほうでは、オンラインサインアップの前に個人情報の取り扱い基準について書かれた規約やQ&Aをしっかりとチェックするようにすべきだろう。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)